

命

皆さんは、「命」について考えを巡らせたことはありませんか。また、もし、自分の大切な人の命が何年もつかわからない。となったらどうしますか。

私のおばあちゃんは、「がん」という重い病気と闘っています。入院・退院をくり返すおばあちゃんは、前までの元気いっぱい姿勢とはかけ離れたものです。私は、おばあちゃんが大好きで昔からたくさん時間を一緒に過ごしてきました。それは今でも変わりません。入院前も退院後も必ず会いにいきます。さみしかったのかおしゃべりに夢中になっているおばあちゃんを見ているとほっとします。けれどやはり、不安も強まります。おばあちゃんは私の前では笑顔だけれど、「がん」という重い病気と闘っていて、元気なはずじゃないからです。きつと、心も体も疲れていたのではないのでしょうか。そんなおばあちゃんが一度、私の前で初めて弱みを見せたことがあります。「死にたくない。」そう言って私の前で泣いていました。私はこ

の時、どのような言葉をかけたらいいか分からず無言のまま背中をさすってあげましたが、私の頭の中では同情・不安・焦りなど数えきれない程のものが同時に浮かんできました。おばあちゃんと変わってあげたい。そう何度思ったことでしょうか。ですが、何を考えても現実が変わりません。このときなにもしてあげられなかった自分が本当に悔しかったです。この出来事があってから私は、「命」について日々考えるようになりました。大人のような回答はちっぽけでもなかったけれど、「生きたい」そう強く願う人のためにもまず、私自身が今ある生活、与えられた時間を意味のあるものにしていく。そう思いました。こういったことがきっかけで、私は、将来人役に立てる職に就き、おばあちゃんのような、「生きたい」と強く願う人や思いもよらぬ事態から夢や目標をあきらめてしまった人達の心を少しでも救ってあげたい。そう決心しました。そこで私が興味を持ったのが、理学療法士です。理学療法士とは、体を動かす専門家です。病気やケガで動くことが難しくなった人や、生まれつき障害のある人などに対し、運動法や物理療法を用いてリハビリを行う仕事です。さまざまな人と関わりをもち、コミュニケーションが必須となるこの仕事は私にとっても合っていると感じました。私は小さい頃、交通事故で左足首を負傷したことがあります。幸い、大きな怪我には至りませんでした。友達と外で走り回ることが大好きだった私には耐えがたいものがありました。そんな時、これまで通りの生活ができるよう支援してくださったのが理学療法士さんだと母

から聞きました。私自身、あまり覚えておらず記憶が曖昧ですが、優しく声をかけ、サポートしてくださった担当医の方には暖かみを感じられます。私もそんな人になりたいです。まだまだ先のことですが、私の将来の夢として、憧れの仕事として追いつけます。

私達はこれからもいろいろなことと向き合っていかなければいけません。そんな中、私が皆さんに伝えたいのは、今ある時間、今の自分の傍にいてくれる人を大切にすることです。一日の価値は皆同じです。明日があるなんて保証はありません。だからこそ、毎日を笑顔で過ごし、「今」を大事にしてください。おばあちゃんは現在、検査結果が良く退院という形になりました。まだ体調が安定しているわけではありませんが、以前より表情に明るさが出ていて心の底から安心できました。おばあちゃん、私に命について考えるきっかけを作ってくれてありがとう。おばあちゃんが毎日欠かさずつけている日記に私の名前が出ていたらうれしいな。これからおばあちゃんらしく病気に負けない体をつくって行ってね。大好き。